

The World Times —11月号—

2-1 横山侑来 2-1 藤井祐人

令和4年7月、世界経済フォーラムが「グローバル・ジェンダーギャップ報告書2022」を公表しました。その中で日本の総合順位は、146カ国中120位で、G7諸国の中では最下位となりました。これを見て私たちはなぜ外国とここまで差があるのか疑問に思い、大宮高校に留学生として通われているお二人に、ジェンダーについて本国と日本の違いを聞いてみることにしました。



Mr. Alex

ハンガリー出身

Q, 日本に来て男女の差を感じることはありましたか？

A, ハンガリーでは男性と女性の給料の差が日本よりも如実に現れていて、男性の方が多いです。日本はそれよりも差がないと感じました。

Q, ハンガリーでは学習において男女の差はありますか？

A, ありません。

Q, 日本では女性が家事をして男性が働くという文化が根強く残っていますがハンガリーではどうでしょうか。

A, 家族の中での役割は日本と似ています。ただ、最近は共働きの家庭も増えています。

Q, ハンガリーでは同性婚などは当たり前となっていますか？

A, ハンガリーでは法律で認められていません。そのため抗議活動が起こっており、一年前にもデモが起こりました。

Q, 政治の面での男女の差はありますか。

A, 議員での男性の占める割合が非常に高いというのが現状です。

Q, 男女で職種の違いはありますか。

A, 女性は教育関係や医療関係に勤めている人が多く、その他の職種は男性の方が多いです。しかし、どの分野でも男女の人数は等しくなってきました。

Q, ハンガリーでの家庭内でのパワーバランスはどうでしょうか。

A, 日本と同じように一家の大黒柱は父親であり、また夫側の苗字になるというのも日本と

同じです。

Q, これから世界でよりジェンダー平等が進むにはどうすればいいと思いますか？

A, 企業が女性の採用を増やして、女性の働きやすい環境を作っていくべきだと思います。



Ms. Leonie

スイス出身

Q, 日本に来て男女の差を感じることはありましたか？

A, 体育の種目が男女で異なっていることがスイスと違うなと思いました。

Q, スイスでは学習において男女の差はありますか？

A, 特にありません。

Q, 日本では女性が家事をして男性が働くという文化が根強く残っていますがスイスではどうでしょうか。

A, 年配の方々は未だにこのような考えを持っていますが、30~40歳より下の年代の人々は共働きの家庭も多いです。実際に私の叔父の家庭も共働きです。

Q, スイスでは同性婚などは当たり前となっていますか？

A, 都心の人々は当たり前になっていますが、田舎の人々の中ではまだ理解が進んでいないと感じます。私自身は賛成です。

Q, 政治の面での男女の差はありますか。

A, スイスでは7人の政治家が政府の中心として働いていて、その男女の割合は男性4人、女性3人です。ただ、議員の中では男性の方が多いです。

Q, 日本よりもここは進んでいると感じる点はありますか。

A, さきほど話したように家庭の中で男女の差があまりなくなっていることは、日本よりも進んでいると思います。

Q, これから世界でよりジェンダー平等が進むにはどうすればいいと思いますか？

A, 赤ちゃんを育てるためにいったん仕事を辞め、子供が成長したら再び働く女性が、ワークライフバランスを感じすぎないように支援することが重要だと思います。

・編集後記

今回のインタビューを通して、日本に足りないのは主張することであると感じました。お二人の国ではどちらもデモが行われたり年代によって考え方が変わったりと、自分たちの主張を明らかにしています。それに対して日本ではジェンダーに対する新しい考えを持ち込み広めようとする動きが少ないように感じました。私たちはこれから、ジェンダーに対する自分の考えを明らかにし、行動していく必要があるでしょう。